

聖路加で学ぶ、国境を越えて健康課題解決のために行動する国際保健学



聖路加国際大学大学院
公衆衛生学研究科 教授

安岡 潤子(やすおか じゅんこ)

ハーバード大学公衆衛生大学院でMPHと博士号(理学)を取得。WHOなど国際機関での実務および東京大学での研究・教育経験を経て、2024年より現職

国際保健学とは？

みなさんは「国際保健学」という学問に、どのようなイメージをお持ちですか？

国際保健学の特徴の一つは、「すべての人が健康でより良い生活を送れるように」という共通の目標に向かって、国や地域の枠を越えて研究と実践を重ねることにあります。医療や公衆衛生にとどまらず、教育・環境・経済など多岐に渡る分野が連携し、貧困や感染症、栄養不良、紛争による健康被害といった多様な健康課題に取り組む学問です。私たちは、苦境にある人々の生活や文化・価値観を尊重しながら、持続可能な解決策を模索していきます。何だか壮大な学問のように感じられるかもしれませんが、国際保健学の根底にあるのは一つの信念です。生まれた場所や時代、暮らす環境

が違って、苦しむ人々に寄り添い、健康の向上を目指して、共に行動する意志です。

もしこの言葉に、あなたの胸が少しでも高鳴っていたら、あなたはもう国際保健学の扉の前に立っているのかもしれない。さあ、私達と一緒に、聖路加で国際保健学を学びませんか？

聖路加公衆衛生大学院の強み

・多様なバックグラウンドを持つ教授陣
聖路加公衆衛生大学院の特色の一つは、多様な国籍と専門性、国際的な研究・実務経験を備えた教員陣です。教員の多くは国際機関での実務経験や海外の大学での教育実績、国際保健分野の研究・活動実績が豊富です。現場経験をフルに活用し、教育と研究の両面で、学生をきめ細



写真2 聖路加公衆衛生大学院の校舎

やかにサポートしています。

・世界水準の教育カリキュラム
国際的に通用する公衆衛生大学院として、Master of Public Health (MPH) および PhD 取得のための高水準の教育カリキュラムを英語で提供しています。公衆衛生学の専門7領域(疫学、生物統計学、医療政策管理学、健康行動科学、環境保健学、国際保健学、学際健康科学)を中心とする体系的な学習に加え、選択科目や実践型プロジェクトによって、学生が自らの専門性を高めることができます。教員は分野を超えた相互連携を重視しており、カリキュラムが学生の学びにとって最大限の効果を発揮できるよう努めています。また、殆どのコースを平日夜間と土曜日に開講し、オンライン・オンデマンドによる授業形態を導入することで、仕事と学業の両立を可能にしています。

・実践力・即戦力を養う授業

授業は理論にとどまらず、今この瞬間にも深刻化している国際的な健康課題の解決を目指すケーススタディやグループ



写真1 聖路加公衆衛生大学院の教員一同

ワークを頻繁に取り入れているため、学生は臨場感を持って各分野の最新のトピックを学ぶことができます。アジア・アフリカ・中近東・欧米諸国出身の、多種多様な価値観や職業経験を持つ学生同士が協力して議論を重ねることで、より多角的な視点で健康課題に取り組む実践力が養われます。将来、国際機関や海外での活躍を目指す学生にとって、英語での議論やプレゼン、多国籍のチームワークのスキルを習得することは、大きなアドバンテージとなります。

聖路加で学ぶ国際保健学

国際保健学分野では、MPH 学生対象の「国際保健学」、「生物多様性と国際保健」、「国際感染症学」、「医療人類学」、「母子保健学」の各コースおよび PhD 学生対象の「国際保健学セミナー」を開講しています。「国際保健学」コースでは、国際機関、開発援助機関、政府・非政府組織、研究機関の国際協力の仕組みについて理解し、今まさに深刻化している世界の健康課題のより効果的な解決策について考察・議論します。WHO・UNICEF 等の国際機関、JICA、海外の研究機関、NGO 等で活躍する専門家と連携しながら、緊急人道支援、顧みられない熱帯病等の感染症対策、メンタルヘルス、母子保健、移民・難民の健康問題など、幅広いテーマを扱っています。

今年度新たに開講する「生物多様性と国際保健」では、生物多様性の喪失がグローバルサウスに暮らす人々の健康を脅かし、健康格差を深刻化させている現状



写真3 UNICEF専門家を招いてのキャリア支援セミナー



写真4 バングラデシュでの研究キックオフミーティング

について学びます。更に、WHO、国連環境計画 (UNEP)、世界自然保護基金 (WWF) 等の国際機関による、人々の健康向上を視野に入れた生物多様性保全の取り組みと課題、解決策について議論します。

聖路加の国際保健研究

本学の教員の国際保健研究は、辺境の地に住む少数民族の健康問題の解明から、国境を越える環境汚染の解析、衛星データを用いる感染症データ分析まで、多岐に渡ります。私自身はこれまで、アジア・アフリカ約 20 か国で研究を実施・指導してきました。今年度は、妊婦の口腔ケアが早産と低体重児出産を予防する効果を検証する介入研究を、バングラデシュで開始したところです。口腔衛生の重要性は、WHO の産前・産後ケアのガイドラインに未だ含まれていません。この研究から得られる知見が WHO や母子保健課題に悩む各国政府の政策に反映されるよう、研究成果を政策提言につなげていきます。

国際保健を学ぶ学生達も、自身の研究に邁進しています。顧みられない熱帯病に関心を持つ MPH 学生は、フィリピンの住血吸虫症に着目し、感染地域の住民の感染リスク行動について調査・分析し

ています。ナイジェリアからの留学生は、母国の薬剤耐性の課題解決のために、病院における衛生行動の向上を目指す実践的な研究を始めています。国際保健を学ぶ学生に共通することは、見知らぬ人々の苦境に思いを馳せ、人々の健康向上のために自身ができることを追究したいと、一心不乱に取り組む姿勢です。その輝く表情に触れる度に、国際保健の道を聖路加で共に歩めることへの感謝の気持ちでいっぱいになります。

国際保健リーダー育成の拠点として

本学は国際社会が直面する健康課題に対応できる、高度専門職の育成を使命としています。質の高い教育と研究を維持するために、2024 年にはアジア太平洋公衆衛生学術連合に加入し、米国公衆衛生教育協議会の認証を取得する準備も進めています。国際基準に準拠したカリキュラム、多国籍・多文化共生の学習環境、実践的な授業やフィールド研究、そして国際的なキャリア支援体制と研究活動。これらが一体となって、本学の国際保健教育と研究の質を支えています。

さあ、志を同じくする仲間とともに、聖路加で新しい一歩を踏み出しましょう。